第84回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会報告

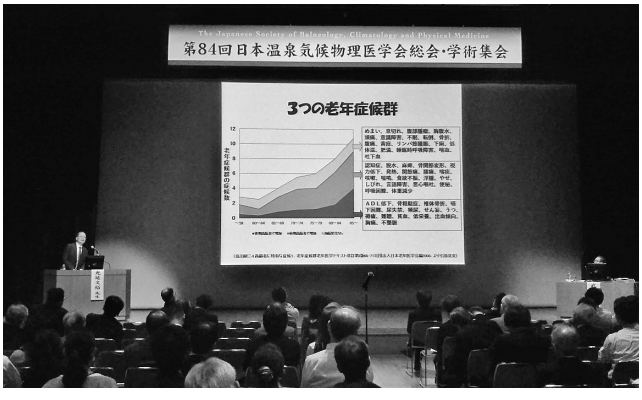
The 84th Annual Meeting of the Japanese Society of Balneology, Climatology and Physical Medicine (BCPM)

会長　光延文裕（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　老年医学）

Fumihiro Mitsunobu (Department of Geriatrics, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

この度，第84回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会を，2019年５月18日（土）～19日（日），光延文裕を会長として岡山コンベンションセンターにて開催いたしました．日本温泉気候物理医学会は，1935年に温泉気候およびその医学的応用に関する学術的研究を目的として設立され，創立とともに日本医学会に加入し，日本医学会の分科会として活動する歴史のある学会です．本学会の学術集会を岡山市内で開催するのは初めてになります．

わが国は，世界でも類を見ない超高齢社会に突入しています．この超高齢社会を活力あるものにするためには，「生活習慣病の予防」，「健康の維持・向上」，そして「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が特に重要になります．また，日本の伝統文化である温泉や湯治を利用した温泉医学，気候医学，鍼灸をはじめとした東洋医学，温熱刺激などを利用した物理医学などは高齢者にも受け入れられやすく，高齢者医療において重要視されるADL（日常生活動作）およびQOL（生活の質）の改善に効果的なアプローチであると考えられます．そこで，テーマとして「超高齢社会における温泉医学」を掲げ，様々な職種，専門分野の方々による多岐にわたる温泉気候物理医学の科学的エビデンスおよびノウハウに関するシンポジウムやセッションを数多く企画いたしました．



第１会場での会長講演

まず，光延が「高齢者医療における温泉気候物理医学の役割」というタイトルで会長講演を行いました．特別講演には，岡山大学大学院保健学研究科 山岡聖典先生より「低線量放射線の健康影響：ラドン温泉の健康効果とそのリスク」，愛知医科大学医学部薬理学講座 岡田尚志郎先生より「ストレスによる血中カテコールアミン遊離・分泌の中枢性調節」についてご講演をいただきました．いずれのご講演も，温泉・気候・物理療法の作用機序について密接な関連を有する内容であり，多くの先生方が参加され活発な質疑応答が行われました．ランチョンセミナー「入浴と健康」では，株式会社バスクリン製品開発部 渡邊智先生により，温泉をひとつのルーツとする各家庭で気軽に使用できる入浴剤の開発，健康面への効用，健康感およびQOLとの関係，ロコモティブシンドローム予防等の取り組みなど，高齢者の健康維持について新たな視点を示していただきました．

シンポジウム１「超高齢者社会におけるヘルスツーリズム」では，「わが国のヘルスツーリズムにおける温泉利用の現状と課題」（日本健康開発財団ヘルスツーリズム研究所 後藤康彰先生），「ヘルスツーリズムにおける安全かつ効果的な運動」（岡山県立大学情報工学部 綾部誠也先生），「地方行政が取り組むヘルスツーリズムの事例：たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）」（岡山県玉野市長 黒田晋氏）の３演題により，様々な先駆的な取り組みの紹介，社会一般におけるヘルスツーリズムの考え方の基本や先行事例についてレビューされました．ヘルスツーリズムに温泉気候物理医学が貢献しうる可能性について，シンポジストおよび参加者による活発な意見交換がなされました．シンポジウム２「温熱刺激の基礎と臨床，最近の進歩 ― 灸治療の効果とその科学的根拠 ―」では，「温度感受性TRPチャネルの構造と機能」（生理学研究所細胞生理研究部門／生命創成探究センター温度生物学研究グループ 富永真琴先生），「灸治療の特性とその可能性」（東京医療専門学校 三村直巳先生），「腰部脊柱管狭窄症のバラン

ス機能に対する足底部（固有感覚受容器）の灸刺激の効果」（東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 鍼灸部門 粕谷大智先生），「温灸療法が妊婦に与える効果 ― マイナートラブルと QOL を指標として ―」（東京有明医療大学保健医療学部 鍼灸学科 安野富美子先生）の４演題により温熱刺激の基礎及び灸治療の臨床的効果とその科学的根拠について紹介され，現代医療における灸治療の果たす役割が示されました．シンポジウム３「温泉気候物理医学のノウハウを活用した高齢者医療の実践」では，「高齢心不全患者に対する和温療法の効果」（鹿児島市立病院 循環器内科 宮田昌明先生），「フレイル（frailty）：当院での現状と取り組み ～ 温泉活用の可能性も含めて」（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 三朝地域医療支援寄付講座／三朝温泉病院 芦田耕三先生），「集団的水中運動療法の実践 ― フレイルの視点から ―」（小山田記念温泉病院 内科 出口晃先生），「温泉の医学的効果とその応用」（九州大学病院別府病院 内科 前田豊樹先生）により，それぞれの立場での取り組みが紹介され，超高齢社会における現在の温泉療法に対する知見の総括，日常診療に役立つ議論がなされました．

特別企画「超高齢社会の入浴事故とその安全対策」では２演題のご講演をいただきました．北里大学医学部法医学 佐藤文子先生から「入浴中の急死と心臓の加齢性の変化との関連について」というタイトルで，多数の入浴中の急死の検案例・剖検例の検討により，高齢者が入浴中に急死する要因として，無症候性の心房細動が関与している可能性があることが紹介されました．また，コブエ法律事務所弁護士 古笛恵子先生の「入浴事故における法的責任」では，入浴は本質的にハイリスクであること，要介護者の入浴事故については，介護者及び介護事業者が損害賠償責任を負うとともに，介護者に対する業務上過失致死傷罪等の犯罪成立が認められ刑事責任まで問われる事故も少なくないこと，その判断は安全配慮義務が尽くされたかどうか，安全配慮義務違反の行為と相当因果関係が認められるかどうかによって判断されること，さらにその裁判例について紹介されました．非常に興味深い内容であり，参加者から多数の質問が寄せられ熱心な質疑応答が交わされました．

温泉療法医総会・講演会では，理化学研究所 医科学イノベーションハブ推進プログラム 桜田一洋先生に「人工知能時代の未来社会と保健医療」と題して，これまでの技術や考えかたでは解決できなかった社会ならびに健康と病気の問題を克服するためのオープンシステムの理論研究，人工知能と人間の知性の違いを明らかにすることから，生命とは何かを明らかにしようとする研究の概要，それらの研究と温泉医学との接点など，示唆に富み非常に刺激的なご講演をいただきました．

埼玉医科大学 東洋医学科 山口智先生には，体験実技セミナー「医師のための鍼灸体験講座（3）― 難治性の疼痛や麻痺に対する鍼灸治療 ―」，岡山大学病院 新医療研究開発センター 堀田勝幸先生には，倫理教育講演「臨床研究を行う時に大切なこと ― 規制を学びみんなで研究を楽しもう ―」，明治国際医療大学 矢野忠先生には，教育講演「超高齢社会における鍼灸治療の役割」と，参加者の知識・技術向上につながるお話をしていただきました．最優秀論文賞受賞の栄誉には，鈴鹿医療科学大学／小山田記念温泉病院 島崎博也先生が浴されました．一般演題も58演題，特別報告として本学会の学術委員会から３演題，用語委員会からの１演題をご発表いただき，活発な発表と討論が行われました．また，18日の岡山城天守閣で開催した会員懇親会は大盛況で，会場は満員となり，岡山のグルメを堪能していただくとともに，場内の各種アトラクションを楽しんでいただき，様々な分野の方々の交流を深めることができました．２日間の本総会・学術集会では440名を超える参加者にお越しいただき，盛会の内に終えることができました．今回の成果が，温泉気候物理医学のさらなる発展とともに活力ある超高齢社会の実現のための一助になることを祈念いたしております．最後になりましたが，準備・運営にあたりご助言・ご支援いただきました全ての方々，演者・座長の先生方，参加者の皆様方に心より御礼申し上げます．

岡山城天守閣での懇親会

令和元年５月27日受稿
〒700-8558　岡山市北区鹿田町２－５－１
電話：086-235-7696　Fax：086-232-8226
E-mail: fumin@cc.okayama-u.ac.jp